



※出典：合同会社 ecartlate 「音声認識市場動向 2026」

# 事業計画及び成長可能性に関する事項

株式会社アドバンスト・メディア

2026年6月29日



# Company Overview



※出典：合同会社 ecarlate 「音声認識市場動向 2026」



Advanced Media, Inc.

株式会社アドバンスト・メディア

設立	1997年12月10日
資本金	69億3031万円
発行株式数	18,392,724株
上場市場	東京証券取引所グロース市場（3773）
所在地	■ 本社 東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60 42階  ■ 大阪支社 大阪府大阪市西区立売堀1-3-11 ダイタイビル5階  ■ 名古屋営業所 愛知県名古屋市東区葵1-25-1 ニッシンビル302  ■ 福岡営業所 福岡県福岡市博多区博多駅前3-23-12 博多光和ビル2階
代表	代表取締役会長兼社長 鈴木清幸
従業員数	社員数 単体：253名（平均年齢37.5歳） 連結：286名

取得認証



・情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）  
・個人情報マネジメントシステム要求事項（JIS Q 15001）

（2026年3月時点）



Advanced Media, Inc.

株式会社アドバンスト・メディア

## “HCIの実現”

H=Human

C=Communication

I=Integration

アドバンスト・メディアは  
「キカイ」との自然なコミュニケーションを  
実現し豊かな未来を創造します

# #音声認識で つくりたい未来へ

## Philosophy

もしも、人とキカイが  
自然な会話でつながる未来を  
実現できるなら。

AI 音声認識 国内シェアNo.1\*の  
「AmiVoice®」があれば、  
そんな楽しい世界だって、  
きっと夢ではありません。

音声認識の力で、  
ワクワクできる未来をあたりまえに。  
私たちは、  
アドバンスト・メディアです。

**AmiVoice®**



# 1. ビジネスモデル

# 事業の内容

当社グループ（当社および当社の関係会社）は、当社（株式会社アドバンスト・メディア）と連結子会社4社により構成されており、事業セグメントは、音声事業の単一セグメントであります。

## 音声事業

当社グループは、AI音声認識**AmiVoice**®を核とした下記の事業を展開しております。

- I. サービス事業      企業及び企業内のユーザーや一般消費者へAI音声認識アミボイスをサービス利用の形で提供する事業
- II. プロダクト事業    AI音声認識アミボイスを組み込んだアプリケーション商品をライセンス販売する事業
- III. ソリューション事業   AI音声認識アミボイスを組み込んだ音声認識ソリューションの企画・設計・開発を行う事業

なお、音声事業の単一セグメントは、**既存コアビジネスをBSR1（第一の成長エンジン）**、新規ビジネスの創生、M&A、海外事業を**BSR2（第二の成長エンジン）**と定義し、9のプロフィットユニットで構成されております。

### 第一の成長エンジン（既存コアビジネス）

当社のCTI事業部、VoXT事業部、医療事業部、SDX事業部の4つのプロフィットユニットで構成をしております。

### 第二の成長エンジン（新規ビジネスの創生、M&A、海外事業）

当社の海外事業部、BDC本部（含む株式会社アミサポ）、および連結子会社のAMIVOICE THAI CO., LTD.（タイ王国）、株式会社速記センターつくば、株式会社feat※の5つのプロフィットユニットで構成をしております。

※ 本年4月に株式会社featを子会社化いたしました。

# 製品・サービス内容①

	主な製品・サービス	主な顧客	サービス内容	
B S R 1	CTI事業部	AmiVoice Communication Suite AOI LLM for AmiVoice Communication Suite AmiVoice CQM Assist AmiVoice ISR Studio	コンタクトセンター	通話の全文リアルタイムテキスト化、管理者による複数通話同時モニタリング、感情解析、生成AIを活用した要約・VoC抽出などで応対品質向上を支援
	VoXT事業部	VoXT One (ScribeAssist、ProVoXT)	地方自治体、 各種民間企業	会議などの音声のテキスト化・生成AIによる要約を用いて、自治体・民間企業のRPA化を促進する議事録作成支援サービスを提供
	医療事業部	AmiVoice Ex7 AmiVoice iNote/iNote Lite AmiVoice CLx	病院、診療所、 放射線科、調剤薬局	電子カルテや読影レポートなど、各種医療文書の作成を音声認識で効率化し、医療現場のタスクシェアリング・働き方改革に貢献
	SDX事業部	AmiVoice Cloud Platform AmiVoice SalesBoost (AmiVoice SF-CMS、AmiVoice RolePlay、 AmiVoice SalesAgent) AmiVoice Keyboard AmiVoice VK/VM AmiVoice UPV	製造・物流・金融・製 薬等、各種民間企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声認識機能をWebサイトやアプリケーションに実装できるAPI・開発キット</li> <li>商談記録からロールプレイングまで、組織のセールスイネーブルメント向上を支援する商談解析ソリューション</li> </ul>

# 製品・サービス内容②

		主な製品・サービス	主な顧客	サービス内容
B S R 2 連結子会社	海外事業部	台湾・香港・中国企業向け AmiVoice Cloud Platform	アジア圏の企業	台湾・香港・中国企業向け、音声認識APIの提供
	BDC本部	AmiVoice スーパーインスペクションプラットフォーム AmiVoice B-Work One AmiVoice トークマウス	建設・不動産業	建設現場における検査結果をはじめ、建築工程管理を支援する音声認識ソリューションを提供
	AMIVOICE THAI	タイ語版 AmiVoice Communication Suite	タイ現地の コンタクトセンター	自社開発のタイ語音声認識エンジンを活かした音声認識IVRや、コンタクトセンター向けソリューションをタイ全土に提供
	速記センターつくば	書き起こし・議事録作成業務	地方自治体、裁判所	自治体を中心に会議議事録作成を受託し、音声の書き起こし業務を提供
	アミサポ	建物品質検査サービス AmiVoice スーパースクライバー	建設・不動産業	AI音声認識を活用したアプリケーションを使いこなし「仕上げ検査」や「配筋検査」、議事録作成代行業務等を請け負う人材を提供
	feat	ソフトウェアテスト/第三者検証、ソフトウェア設計/開発、ハードウェア設計/開発、技術サポート	情報通信業	第三者検証分野での15年以上にわたるノウハウの蓄積とソフトウェア設計から開発、機械設計・回路設計など上流から下流までの一貫したサービスの提供

# 主要な製品・サービスの紹介①

## AmiVoice® Communication Suite (CTI事業部)



### コンタクトセンター向けAI音声認識ソリューション

豊富な機能でコールセンター業務を強力にサポートし、応対品質向上・顧客満足度向上・業務効率化・売上向上など、コンタクトセンターの課題を解決します。各業界に特化した高精度な音声認識エンジンをベースに企業それぞれのニーズに合わせて柔軟にカスタマイズすることも可能です。



## VoXT One by AmiVoice® (VoXT事業部)



### AI音声認識 文字起こし支援アプリケーション

Web会議や商談、会見等、対面・非対面の幅広いシーンで利用できるスタンドアローン型文字起こし支援アプリケーションと、インターネットに接続できれば、どこでも簡単にAI音声認識による文字起こしができるアプリケーションの両方をご利用いただけます。



## AmiVoice® Ex7 (医療事業部)



### 話したら、即、入力。医療現場の記録をスピード作成

AmiVoice Ex7はマイクで話すだけで文章が作成できるソフトウェアです。医療の現場で必要とされる電子カルテへの入力、服薬指導や読影レポートの作成から診療情報提供書の準備まで、PCで行う様々な文章入力の負担を軽減します。



# 主要な製品・サービスの紹介②

## AmiVoice<sup>®</sup> スーパーインスペクションプラットフォーム（BDC本部）



### 建築検査用の音声入力アプリ。AIが業者を自動振分け！

建築仕上げ検査、配筋検査、安全パトロール、内覧会用などの音声入力アプリ。指摘事項を発話して検査結果入力完了。AIが協力会社を自動振り分けし仕分け作業不要です。すでに100社以上でご利用いただいています。

## AmiVoice<sup>®</sup> Cloud Platform（SDX事業部）



### 音声認識API・SDKを提供する開発プラットフォーム

AmiVoice 音声認識API・SDKの活用により、クライアントアプリケーションに特別なライブラリを組み込む事なく、音声認識機能を実装できます。音声文字化や音声対話、音声制御、音声翻訳等、アプリケーション、Webサイト等の各種サービスにご使用いただけます。

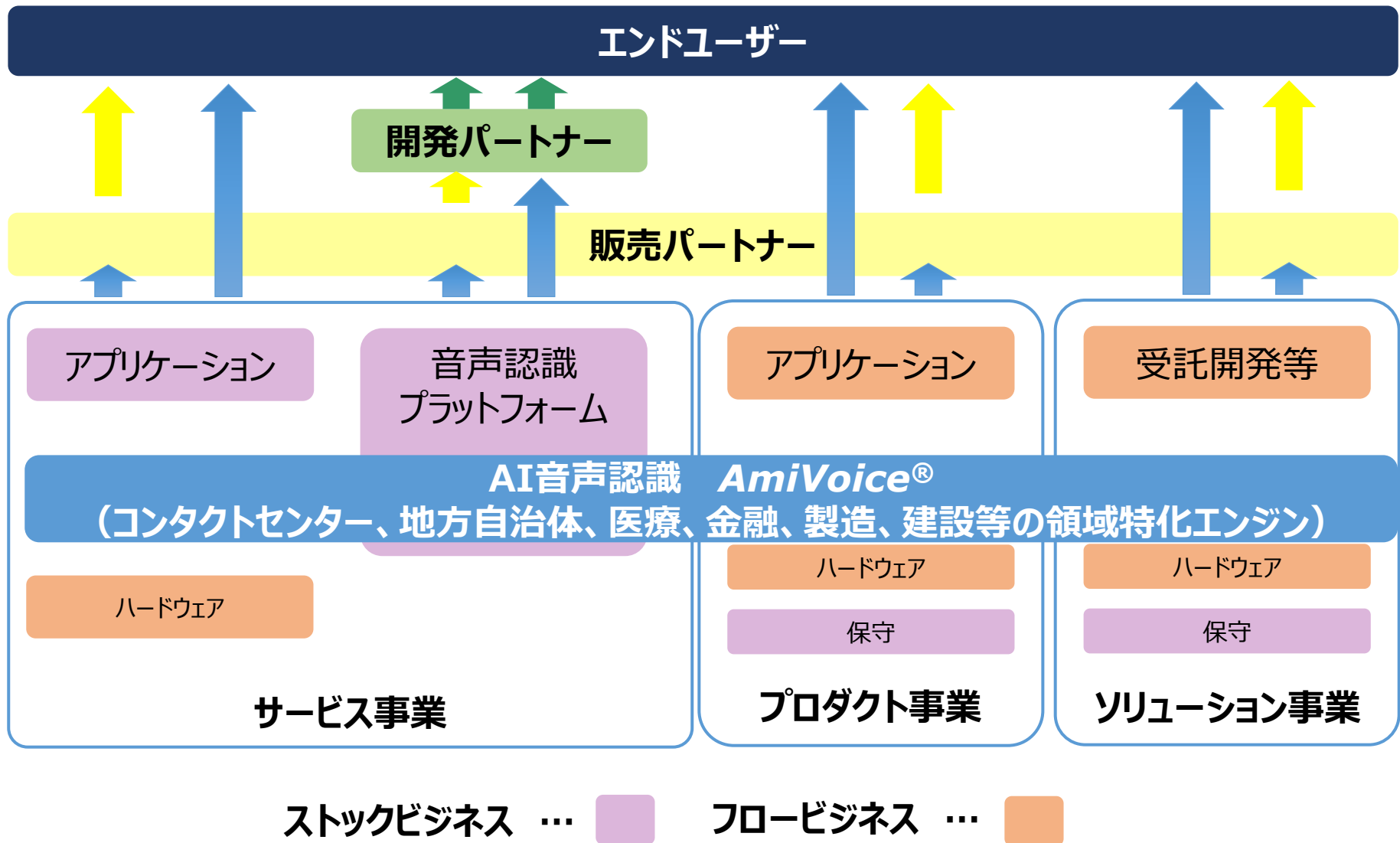
## AmiVoice<sup>®</sup> SalesBoost（SDX事業部）



### 音声認識とAIを活用した営業力強化プラットフォーム

接客・商談の会話を見える化・分析する「AmiVoice SF-CMS」、AIを活用して効率的な営業トレーニングを可能にする「AmiVoice RolePlay」、商談の準備から提案・分析まで、営業活動をAIがまとめてサポートする「AmiVoice SalesAgent」をシリーズ化した営業力強化プラットフォームで、営業活動のDXを加速させます。

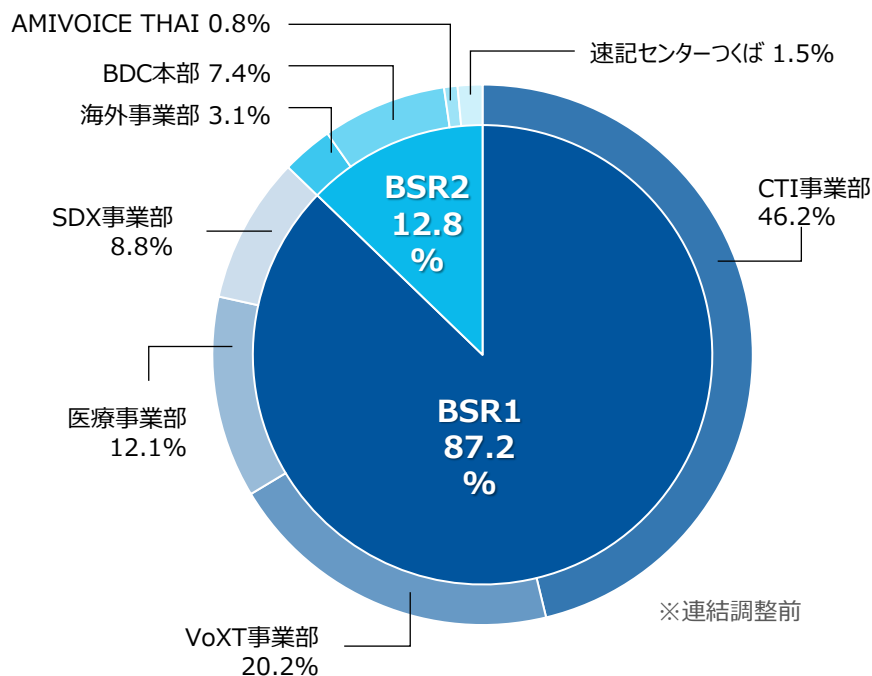
# ビジネスモデル



# 分野別の実績（2026年3月期）

- BSR1、BSR2ともに前年比増収を達成

2026年3月期の売上構成



**BSR1（第一の成長エンジン） 6,217百万円（+4.6%）**

CTI事業部を中心にストック型商品の導入が進み、  
前年比4.6%増収

**BSR2（第二の成長エンジン） 911百万円（+19.5%）**

海外、BDC本部、THAI、つくばそれぞれ前年比増収。  
なかでもBDC本部の寄与度が高い。

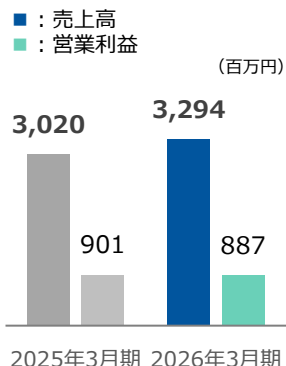
# 事業別の実績：BSR1

## CTI事業部

売上高 前年比

3,294百万円 +274百万円 (+9.1%/y)

AIの高度活用を展開し、コンタクトセンターに最適な価値を訴求。大手SIer中心の販売パートナー連携により、コンタクトセンター向けAI音声認識『AmiVoice® Communication Suite』の顧客基盤拡大継続。

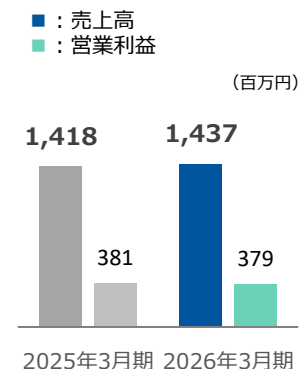


## VoXT事業部

売上高 前年比

1,437百万円 +19百万円 (+1.4%/y)

スタンドアロン型の議事録作成・文字起こし支援アプリケーション『ScribeAssist』、クラウド型のサービス『ProVoXT』の需要は着実な増加傾向にあり、増収継続。認識精度を重要視する顧客の引き合いは強い状況。

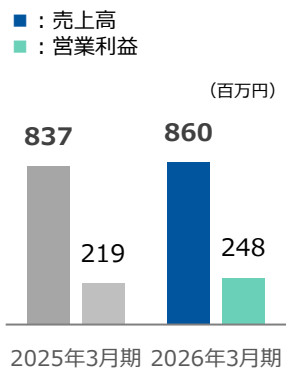


## 医療事業部

売上高 前年比

860百万円 +22百万円 (+2.7%/y)

「医師の働き方改革」を背景に、医療従事者の生産性向上に貢献する当社のAI音声入力ソフト「AmiVoice® Ex7」シリーズや医療向けAI音声認識ワークシェアリングサービス「AmiVoice® iNote」の導入が進む。

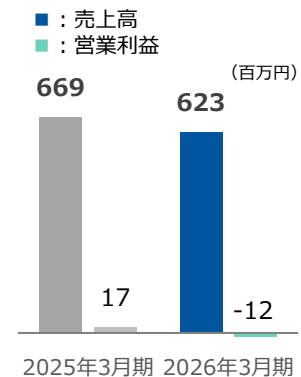


## SDX事業部

売上高 前年比

623百万円 -45百万円 (△6.8%/y)

AI活用ニーズの拡大を背景に、クラウドサービスの利用拡大や営業支援AIの新製品開発・市場導入を推進。切り替えを図った結果、現行の製品販売やサービスの利用に影響が及んだため、一時的に減収の結果となった。



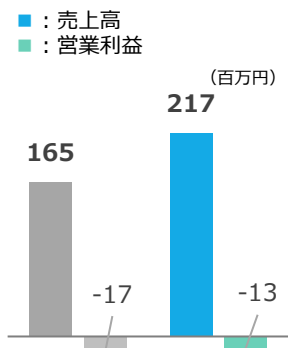
# 事業別の実績：BSR2

## 海外事業部

売上高 前年比

217百万円 +52百万円 (+32.0%/y/y)

主要顧客の寄与度が高い。日本の市場へ向けてサービスを展開する海外のアプリ提供事業者に対するサポートを通じ、APIの販売数量が増加。



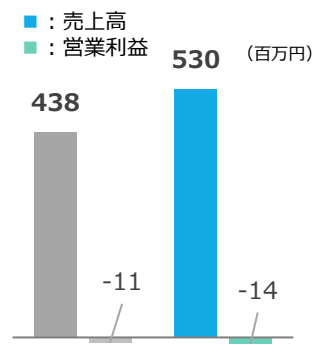
2025年3月期 2026年3月期

## BDC本部

売上高 前年比

530百万円 +92百万円 (+21.1%/y/y)

建設・不動産業界の事業効率化に貢献し売上拡大。建設業界向け建築工程管理のプラットフォームサービス「AmiVoice® スーパーインスペクションプラットフォーム（SIP）」の導入が進み、SIPを活用した人材サービスも好調。



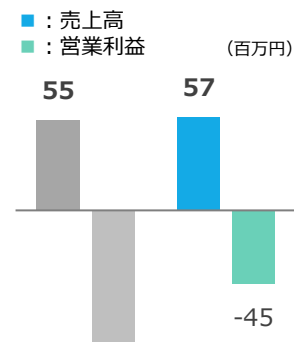
2025年3月期 2026年3月期

## AMIVOICE THAI (連結子会社)

売上高 前年比

57百万円 +1百万円 (+3.4%/y/y)

主要顧客に対する案件の獲得ならびに、日系現地法人のサポートにより、売上増加。



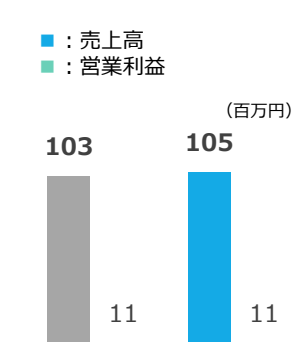
2025年3月期 2026年3月期

## 速記センターつくば (連結子会社)

売上高 前年比

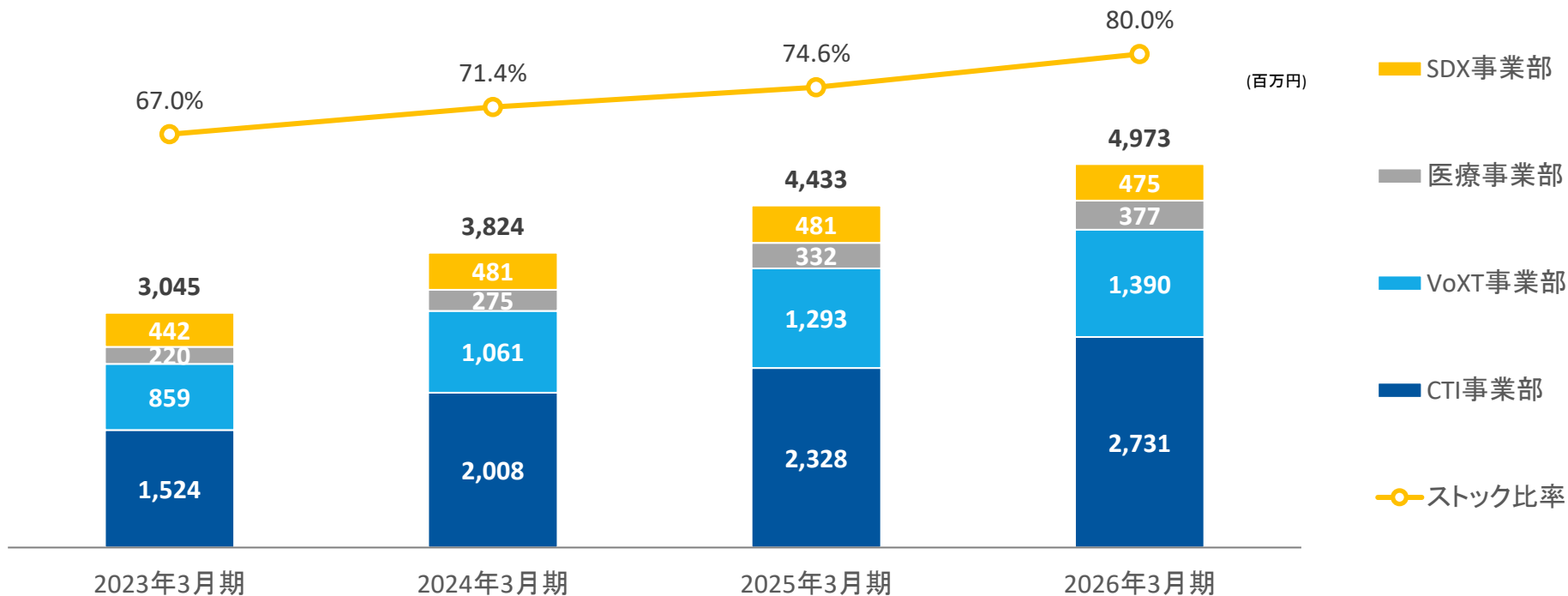
105百万円 +1百万円 (+1.6%/y/y)

会議録作成の効率化需要に応え、自治体や裁判所など公共機関向けの売上堅調。民間向けの案件獲得も進め、増収。



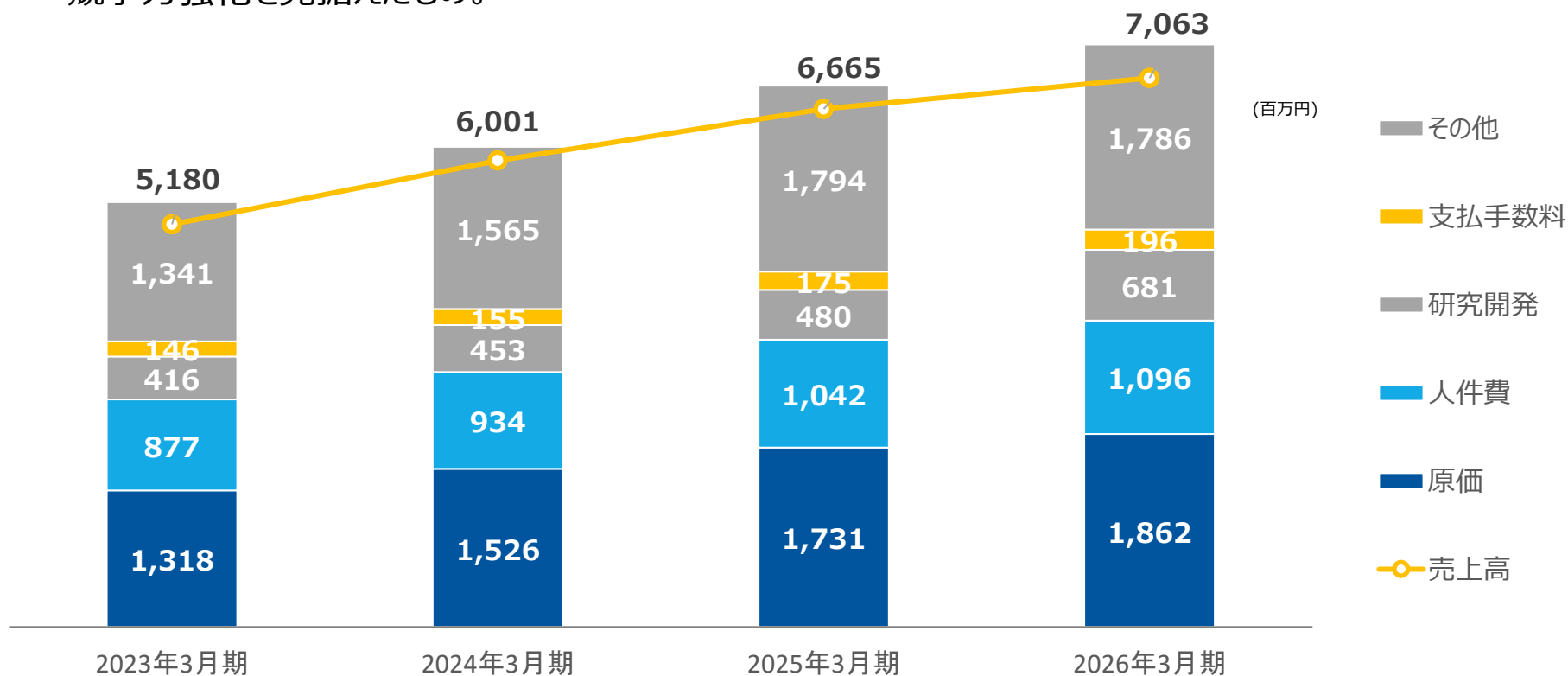
2025年3月期 2026年3月期

# | ストック売上高・ストック比率の推移 (BSR1)



# コスト構造

- さらなる成長に向けて、研究開発および人材への投資に注力している。研究開発費は前年比41.8%増、人件費は前年比5.2%増。
- 研究開発費は、音声認識精度向上のためのデータ量が急激に増加するとともに、生成AIの研究に伴うデータ増加もあり、ストレージ機能を強化。加えて、生成AI研究開発のためのGPUマシン購入等、将来の競争力強化を見据えたもの。





## 2.市場環境

# 音声認識市場（予想）

## 音声認識市場

2024年度から2029年度のクラウドサービス市場の

**CAGRは20.1%**

**2029年市場規模予測は500億円**

### ■ご参考

市場全体

**CAGR 5.2%**

**2029年市場規模予測 1,472億円**

オンプレミス市場

**CAGR 0.7%**

**2029年市場規模予測は972億円**

・クラウドサービス市場の採用が広がる

・生成AIとの連携による質の高いアウトプット強化を重視

出典:合同会社ecarlate「音声認識市場動向 2026」

# 分野別の概況

## コンタクトセンター（CTI事業部）

**(参考) 当社CAGR 13.1%**  
**(FY2023～FY2025)**

- クラウドサービスの活用により、中小規模のコンタクトセンターでの導入拡大が見込まれる
- 生成AIとの連携によるAI対話や要約、ボイススポットなどの需要が見込まれる。

## 議事録（VoXT事業部）

**(参考) 当社CAGR 15.3%**  
**(FY2023～FY2025)**

- 業務効率の向上ニーズの増加から、会議の文字化需要は引き続き旺盛と考えている
- 生成AIとの連携による要約機能などの需要が見込まれる

## 医療業界（医療事業部）

**(参考) 当社CAGR 7.7%**  
**(FY2023～FY2025)**

- 医師の働き方改革により、限られた人材での効率的な患者対応、作業が求められている
- 看護記録の記入・作成のみではなく、情報共有等の関係者同士のコミュニケーション手段での活用の需要も高まるものと考えている

## 建設業界（BDC本部）

**(参考) 当社CAGR 4.2%**  
**(FY2023～FY2025)**

- 人手不足、生産性向上などの背景から、業務効率化を支援するソリューションの需要が旺盛
- 現場内のコミュニケーションや情報共有の支援等で、生成AIとの連携をいかした活用の需要が高まるものと考えている

CAGR：当社実績

# 音声認識の市場開発のこれまで

(2026年3月時点)

コンタクトセンター **610**社 (95,430ライセンス)

議事録・書き起こし

自治体・民間

計 **3,176**施設

API・開発キット

**8,102**ユーザー

医療

**20,032**施設  
(68,991ライセンス)

モバイル・ビジネスソリューション

**1,146**社

建築・不動産

**578**社  
(85,932ライセンス)

製造・物流

**6,313**ライセンス



# 音声認識市場のシェア



※出典：合同会社 ecarlate 「音声認識市場動向 2026」



# 3.競争力の源泉

# 競争優位性①

## AI音声認識 *AmiVoice*®



### 豊富な導入実績

2万件以上の利用実績に基づく、多様なビジネスシーンのデータを集積。豊富なソリューションをラインアップ。



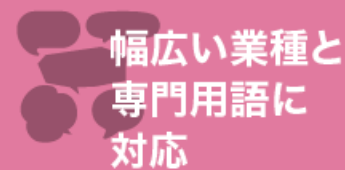
### 高い認識率

常に最先端の技術を研究し、最新のディープラーニング技術を実装。業界随一の高い認識率を誇ります。



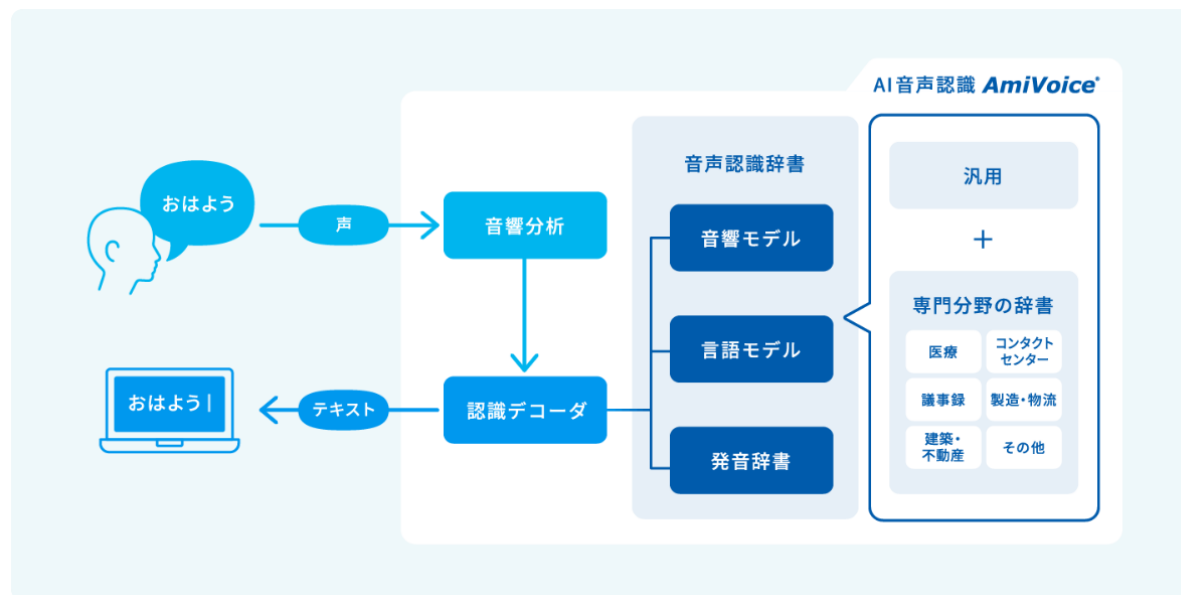
### 自然な話し言葉の認識を実現

発話スピードやイントネーションへ柔軟に対応。日常会話のような、自然で長い発話でも高い認識精度を実現します。



### 幅広い業種と専門用語に対応

幅広い業種の専門用語に対応する音声認識エンジン。個別カスタマイズも可能です。



# 競争優位性②

AI音声認識  
AmiVoice®

AI音声認識マーケットをリードしていく**市場創造力**

各業界に精通している**パートナーとの強固な連携**

AI音声認識に関する知見・経験が豊富な**販売力**

AI音声認識に特化したアプリケーション**開発力**

AIなどを用いて価値を増幅させる**応用技術開発力**

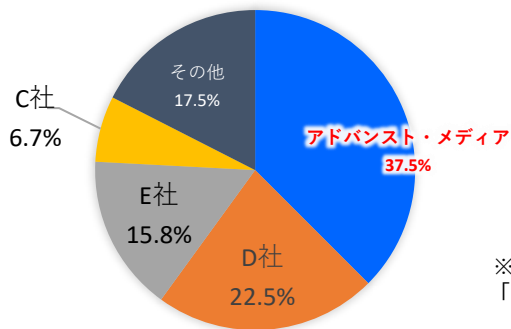
AI音声認識をアップデートし続ける**基礎技術開発力**

これらの競争優位性が音声認識市場でのトップシェアに繋がっている

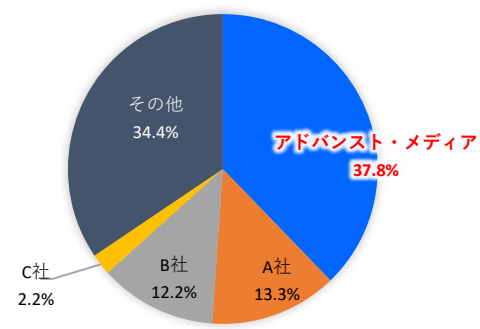


※出典：合同会社 ecarlate「音声認識市場動向 2026」

音声認識クラウドサービス市場：  
メーカー別市場占有率



音声認識ソフトウェア市場：  
メーカー別市場占有率



※出典：合同会社 ecarlate  
「音声認識市場動向2026」  
2025年度見込



# 4.事業計画

# 計画と実績の差異について

## 1-1. 連結：FY2025の計画と実績の差異について

(単位：百万円)

	計画	実績	差異	主な要因
売上高	8,000	7,063	△936	・プラス要因：BSR1、BSR2ともに増収、ストック型のサブスク案件獲得を順調に伸長 ・マイナス要因：期首目論んでいた M&Aの遅延、CTI事業部における大型フロー型案件の減少
営業利益 営業利益率	1,800 22.5%	1,440 20.4%	△359 △2.1%	・売上高の未達 ・円安に伴うサーバー費用増加等のコスト要因が影響

## 1-2. BSR1：FY2025の計画と実績の差異について

	計画	実績	差異	主な要因
売上高	6,620	6,217	△403	VoXT事業部、SDX事業部、医療事業部にて予算未達
営業利益	1,627	1,503	△123	・売上高の未達 ・販管費及び一般管理費や開発への投資により減益

## 1-3. BSR2：FY2025の計画と実績の差異について

	計画	実績	差異	主な要因
売上高	930	911	△18	海外事業部、子会社AMIVOICE THAI、子会社速記センターつくばにて予算未達
営業利益	黒字化	△62	△62	子会社AMIVOICE THAIの赤字継続

# 各施策の状況について

①

## 音声認識市場開発の深化 によるビジネスの拡大

● 2026年4月に株式会社featを子会社化。

同社の強みである、完成したプログラム・ソフトウェア・アプリケーションの検証・テストにおいては人力が不可欠なプロセスであり、AIには代替できないものであると考えております。それらの技術力や実績を当社のAI音声認識プラットフォームに内包させることで、より高品質かつ安定的な AI サービスの提供および社会実装の実現を加速させてまいります。

②

## プラットフォームビジネス の拡大

● 利用促進を目的とした新たな利用料モデルについて、利用可能なサービスの拡充を検討するとともに、それを運用するためのシステム開発を推進しました。

● 議事録ソリューションのプラットフォーム「VoXT One」のユーザー数の拡大を進めました。

● 営業力強化プラットフォーム「AmiVoice® SalesBoost Platform」の市場への導入活動を進めました。また、AI音声認識AmiVoiceと生成AI、感情解析機能を活用し、商談をリアルタイムで支援するソリューション「AmiVoice® SalesAgent」を新たなラインナップとしてリリースしました。

● 建設現場におけるスムーズな情報共有やコミュニケーションを可能にし、業務効率の向上と迅速な意思決定を支援する新プラットフォーム「AmiVoice® B-Work One」をリリースしました。

③

## 新規サービスの市場投入

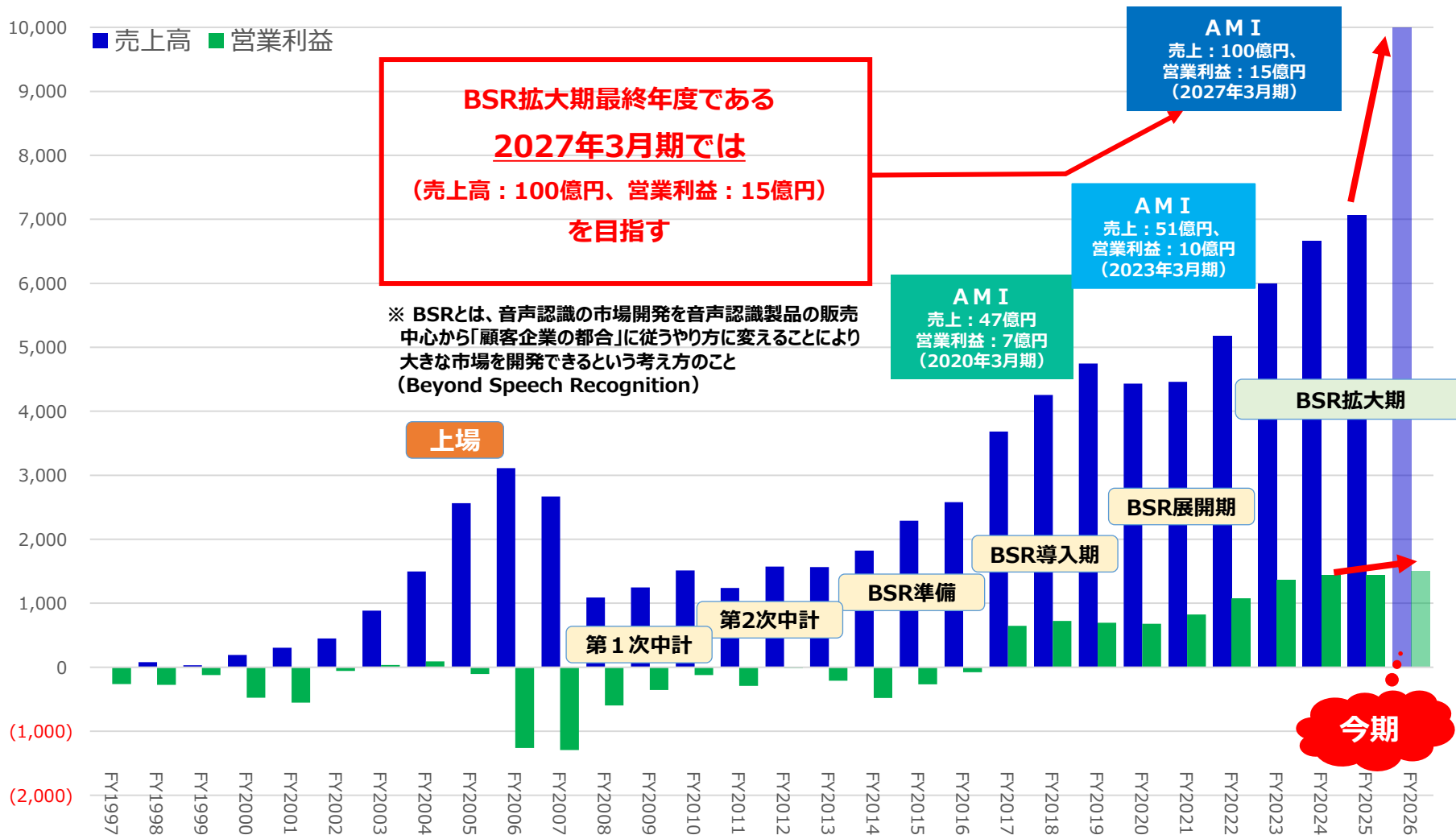
● iOS端末を利用し、音声入力機能に加え、PCのマウス・キーボード操作を代替するアプリケーション「AmiVoice® トークマウス」をリリースいたしました。

● 声によりキーボードやマウス操作をAIに代行させることにより、作業効率や作業効果を高められる新たなAIアプリサービス「パーソナライズ AIエージェント」の開発を進め、市場への導入を始められる段階までまいりました。

● 先進的なコミュニケーション機能と製品利用の効果を動画で体感できる機能をWebサイトに付与することにより、インサイドセールスへ誘導する新たなアプリサービス「AEV」の開発を進め、当社においてその効能を実証する段階までまいりました。

# AMIグループの業績推移とこれから

(単位：百万円)

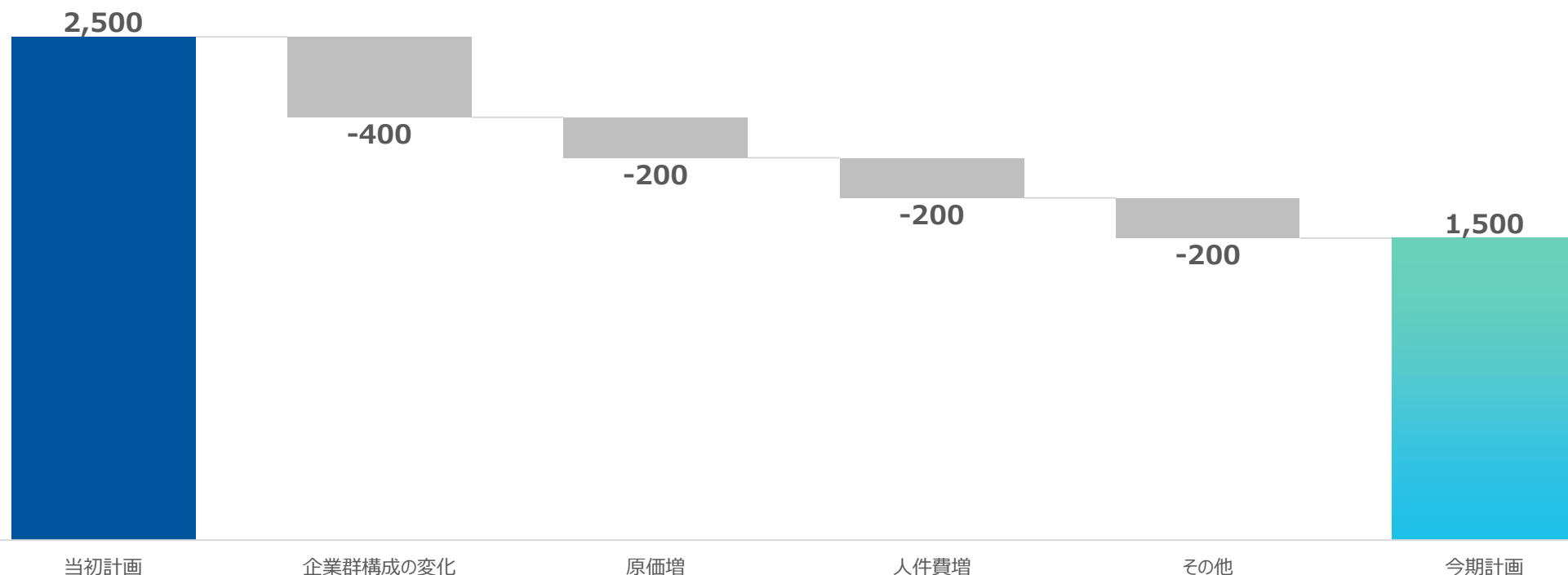


# 2027年3月期の計画変更について

- 中期経営計画最終年度の2027年3月期に営業利益25億円を見込んでいたが、15億円へ変更する。
- 変更理由は、企業群構成の変化、円安に伴うサーバー利用料やGPUマシンの高騰など原価増、給与改定(※)に伴う人件費増、など。

※AI事業のさらなる成長に向けた人材への投資強化を目的とする。

(百万円)



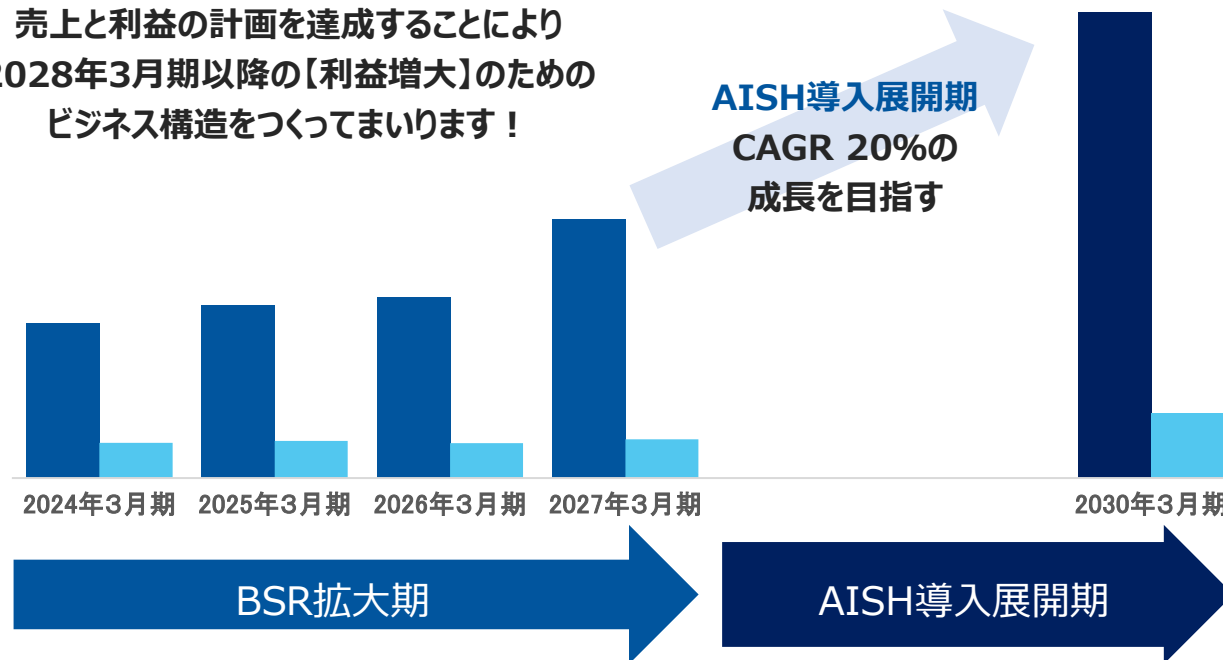
# 今後の見通し

- 「BSR拡大期」最終年度の2027年3月期を踏み台に「AISH導入展開期」へ踏み出す
- AIが仕事を奪う時代ではなくAIで仕事を“継続・進化”させる時代へ
- さまざまなAIを目的に応じて活用する仕組みづくりを目指す

※ AISH（アイッシュ）とは、AIを利用することで仕事の効率や効果を高め、そして、AIを相棒にすることで仕事を楽しくすること

2027年3月期の利益目標値を前年並みとし  
 売上と利益の計画を達成することにより  
 2028年3月期以降の【利益増大】のための  
 ビジネス構造をつくってまいります！

## 計画達成キー戦略



# 計画達成に向けた施策

BSR拡大期の最終年度である  
2027年3月期に売上高100億円、営業利益15億円を実現  
及び  
2030年3月期に向けたAISH導入展開期の以下施策の遂行

その1. M-Devへの挑戦

その2. アドバンストメディアへの挑戦

その3. 音声AIイネイブラーへの挑戦

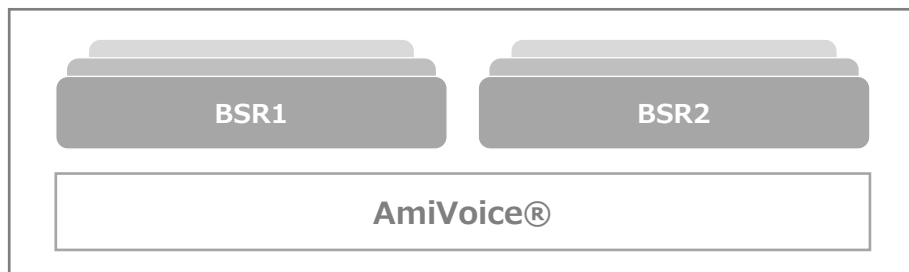
# AIの市場開発へ

- これまでは、AI音声認識 AmiVoice® とBSRとにより音声認識の市場開発を行ってきた
- これからは、企業のAIイネイブル化を促進する「AISHプラットフォーム」によりAIの市場開発へ踏み出す

これまで

## 音声認識の市場開発

BSR 1、BSR2を基軸としたストックビジネスの積み上げによる収益基盤を構築



<日本語 x 音声認識 x 業界特化>  
の強み

顧客企業



AISHプラットフォームの普及による  
非連続的な成長への挑戦

これから

## AIの市場開発

AIを声で動かす“音声AI”により  
仕事の効率や効果を高め  
快適に働ける環境を世の中に広める

## AISHプラットフォーム

音声AI

人が音声コミュニケーションで動かすAIのこと  
“声で動かす”AI（音声AIイネイブル）を前提とする

サステナビリティ

社会



※ BSRとは、音声認識の市場開発を音声認識製品の販売中心から「顧客企業の都合」に従うやり方に変えることにより大きな市場を開発できるという考え方のこと（Beyond Speech Recognition）

# AISHプラットフォーム

## AOIプラットフォーム (PAI : パーソナライズAI)

### 音声AIサブスタンス

- ・声キーボード (VK)
- ・声マウス (VM)
- ・トークマウス (TM)
- ・----

### 音声AIアプリサービス

- ・AIアバターAOI
- ・AOI LLM
- ・SF-CMS/RolePlay
- ・SalesAgent
- ・----

## AISHプラットフォーム

- ・AWB
- ・----

## パーソナルAI 生成AIとAIIエージェント (GAI : Generative AI)

声で動かす  
音声AIサブスタンスや  
音声AIアプリサービスと  
生成AIやAIIエージェントとの  
連携により  
仕事の効率や効果を高めることで  
快適に働けるプラットフォーム

音声  
(声で動かす)

※ AOIとは、AI音声認識と大規模言語モデル (LLM) や知識ベース (KB) との連携を可能にする音声AIのこと (AmiVoice Ontology Integrated)

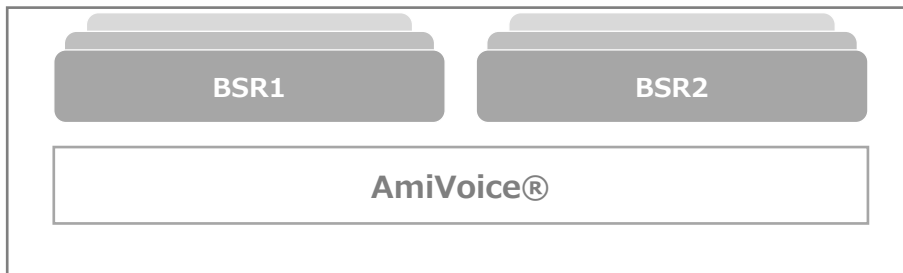
※ 音声AIサブスタンスとは、人との音声コミュニケーションで動くAI (音声AI) サブスタンスのこと  
サブスタンスとは、特定のタスクを実行するための入出力を有した処理ユニットのこと

※ AWBとは、GAIやPAIを集合化し、連携させることにより、仕事の効率や効果を高めることが可能なソフトウェアの基盤 (AISH Work Basis) のこと

- これまでは自らで製品を開発し自らで市場開発を行ってきた
- これからはM-Dev戦略により売上を格段に増大させる

これまで

自らで市場開発



マーケットイン



顧客企業

これから

他社連携による市場開発

**M-Dev (エムデブ)**

AISHを目指し  
M&Aを含む他社連携により  
販路の開拓と販売の拡大を行う戦略

**AISHプラットフォーム**

**音声AI**

人との音声コミュニケーションで動かすAIのこと  
"声で動かす"AI (音声AIイネイブル) を前提とする

売上の格段の増大

- 企業のWebサイトをメッセージ伝達力の高い動画を使うことで先進的なメディアに変える
- Webサイト来訪者が必要とする情報を効率よく提供し  
AEV活用企業の見込み客の獲得率を向上させることでインサイドセールスに繋げる

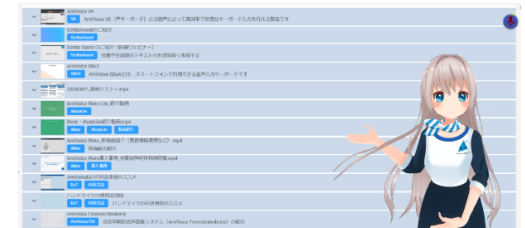
### ① 企業がAEVに動画やWebサイトなどコンテンツを登録



### ② AEVがサイネージウィンドウを展開



### ③ コミュニケーションウィンドウをポップし、見込み客がタグから関心のあるコンテンツを選択、視聴



### ④ 操作ウィンドウを通じて見込み客がコンテンツを選択 AI Avator AOIがガイド、誘導



### ⑤ コンテンツに関心を持った見込み客と、コンテンツを展開した企業とをAEVがオンラインマッチング



リード獲得率の向上



インサイドセールス

※ AEV : AmiVoice Easy Viewerの略。当社が特許を取得した、Webサイトを高度なメディア「アドバンストメディア」へ進化させるサービス。

# 音声AIイネイablerへの挑戦 (C4V)

Challenge for "Voice AI Enabler"

- ・当社を、これまで培った音声AIを武器に、多様なAIを組み合わせ、仕事の効率と効果を高める  
AI集合化モデルを社会に定着させる音声AIイネイablerへ進化させる
- ・「音声AIを活用することがアタリマエ」を社会に広げ、  
自ら仕事を継続・進化させることにより、AISHの時代を支える企業集団の核となることを目指す

## BEFORE

Amivoice®の提供者

音声認識の  
アプリケーションやサービスの提供  
=「点」での提供



## AFTER

企業にAIを使わせる仕掛け人

AIを使いこなすための  
環境・アプリ・運用の統合支援  
=「面」での社会実装

「音声AIイネイabler」=「世の中が必要とするAIイネイブル化を“音声AI”により促進する会社」



# 5. リスク情報

# リスク情報

成長の実現や事業計画の遂行に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクは以下の通りです。その他のリスクについては、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

項目	発生可能性 ／時期	概要（抜粋）	対応策
音声認識の市場開発から音声AIの市場開発への進化が遅延すること	中／中長期	音声認識の市場開発を音声AIの市場開発へと進めてまいります。そのために、音声AIの新規ビジネスの導入により現行ビジネスを拡大フェーズに移行させ、さらには、音声AIのビジネスを加えることにより市場を拡大させてまいります。しかしながら、音声AIのビジネスの導入に想定以上の時間を要し遅延する可能性もあります。	「4. 事業計画」の中期計画・施策を進めるとともに、市場（外部環境）の変化に俊敏に対応してまいります。
業績の変動について	中／常時	音声認識の市場開発から音声AIの市場開発への進化の遅延、外部環境の変化等、当社が想定できない諸般の要因で、当社の事業が計画どおりに進捗しなかった場合には、想定している経営成績に影響する可能性があります。	「4. 事業計画」の中期計画・施策を進めるとともに、市場（外部環境）の変化に俊敏に対応してまいります。
新製品及び新技術の開発	中／中長期	現在、音声認識の基礎的な開発は終了し、既に、様々な商品を開発しビジネス化を行っております。しかしながら、ビジネスをさらに拡大させるためには、これらを土台とした音声AIの技術の進化や新製品の開発が不可欠です。当該の音声AIの技術の進化や製品の開発に資金や時間が想定以上に必要となり、先行的に支出された研究開発費等の回収が困難になった場合には、当社グループが想定する売上計画が達成できなくなり、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。	中期計画に対して、適切な研究開発費を設定するとともに、研究開発費の内訳について選択と集中をすることで適切にコントロールしてまいります。

# リスク情報

項目	発生可能性 ／時期	内容（抜粋）	対応策
音声認識技術に代替する新技術の誕生	低／不明	音声認識技術に代わる新しいインターフェース等の誕生、普及により、当社の技術優位性がなくなる等、当社が明確な競争優位性を確保できなくなった場合には、当社グループの経営に影響を与える可能性があります。	音声認識技術に関連する技術動向を、基礎技術部門でフォローし続けるとともに、当社も様々な新技術に対する研究・開発を進めてまいります。
競合他社について	中／不明	現時点では当社の音声AIの製品は、国内外の競合他社の製品と差別化されると考えておりますが、将来的に高い技術力および開発力を有する競合企業が出現する可能性は否定できず、競争の激化によって当社の優位性が失われた場合、また、競合他社が他の有望な音声AIの市場を開発し、当社グループが後塵を拝した場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。	音声AIの進化に必要な音声や言語のデータの収集をし続けるとともに、技術の革新やニーズの掘り起こしとニーズを満たす製品の開発をし続け、競争力を維持し続けてまいります。また、他社の技術や開発物のレベルを常に把握し、そのキャッチアップも同時に行ってまいります。

注) 「5. リスク情報」については、当社株式の投資に関する全てのリスクを網羅したものではありません。

- 次回の本資料の開示は、2027年6月を予定しております。
- 本開示には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。